

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 常葉の家		
所在地	静岡県掛川市大阪 398-1		
自己評価作成日	平成23年 2月18日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [ligo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22761](http://ligo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=22761)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 システムデザイン研究所		
所在地	静岡県駿河区馬淵2-14-36-402		
訪問調査日	平成23年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○ 利用者の状況、要望に個別に応えられるよう、心がけています。  
 ○ 目の前の公園があり、恵まれた自然環境にある。又、買い物も歩いていける近さなので、生活環境として快適です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の前には広い公園があり、おにぎりを食べたり、地域の住民とふれあえる環境にある。敷地内には畑や花壇があり自然の変化を体感できる。通学路に面していて、登下校の小学生が気軽に挨拶してくれる関係が築かれている。  
 入居している利用者に対しては、個性を尊重して自立支援をはかる工夫がされている。例えば、車いす利用していて園芸を希望する方に対しては、長椅子を設置して園芸が楽しめるように工夫し残存能力の維持につながっている。配膳や下膳なども心身の能力に応じてできるだけ手伝ってもらふ姿勢がみられる。それぞれの特性に応じて職員が連携して支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとづいた支援ができる様、心掛けている。	個別性を大切にする理念をもち、職員には理念に向かって一緒になってサービス提供しようという思いがある。利用者ごとに目標を作成する際などで、個別性を尊重する理念が反映されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋台引き回しの祭り、施設の中に入ってもらったり、地域の婦人部の方の踊り、劇、歌など定期的にきて披露していただいています。	回覧板が回ってこないため、広報誌を職員が手配している。散歩の際には公園で地域の人と会話するなど、地域と馴染みの関係が築かれている。地域参加として、奉仕の清掃活動に利用者が一緒に活動している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年地域の中学校で福祉体験があり、生徒が、順番に3日間体験していただいています。又、地域の方の見学等いつもオープンにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っている。	運営推進会議では、病院の医師や相談員などに講師になってもらい認知症の勉強会を年2回開催した。関係機関や利用家族の参加が増え、職員も意識の向上につながるなどの効果を得ている。地域とのつながりに活用されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でケアサービスの取り組みを伝えたり、又、日頃から連絡をし協力関係を築いています。	市職員が運営推進会議へ参加しているため、行政と気軽に相談し合える関係がある。市担当者への提出物は窓口へ持参し、連携をはかっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、いつでも出られるように見守りをしている。	外出し危険に晒された経験を生かし、1号館を除いて施錠解放されている。1号館でも職員が窓口で対応し、希望があればいつでも外出できるように環境が整っている。危険な行動がみられた場合は原因を究明し、寄り添う姿勢で支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講演にいき、その資料のもとで職員同士で学ぶ機会を持ち、よりよい介護に向けての取り組みを促進する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個人的に講習に参加し、学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、理解 納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望等意見箱を設置し取り組んでいる。	アンケート結果や意見箱の要望を反映し、全職員に名札を付けるなど改善がおこなわれている。計画の更新時などで家族と面談する際に「運営に関する要望はありませんか」などと確認するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設け、反映させている。	会議の際では「どう思うか」「なぜそう思うか」「どうしたらよいか」を職員から聞きとり、改善につなげている。職務中でも、感じたことが発言できるような雰囲気づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があり、職員の研修レポートの提出や、私立病院の相談員の方の講習や薬剤師の方の講義を、常葉の家で開きました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームと交流する機会を作り相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に耳を傾けながら、安心して、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時、電話での報告、手紙等で関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的な通院や外出支援等本人家族と話し合い、その人らしい生活の継続が図れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのペースを大切に、家族のように共存し、庭には畑があり、野菜の育て方など、利用者から学び、お互い支え合う雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、築いていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にきてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と会っていただいたり、本人が行きたい馴染みの場所にドライブに行っています。	利用者が気がかけていることがあれば解消できるように努めている。場合によっては自宅の周辺まで一緒に外出したりする。馴染みの関係を保つために挿絵を描いた絵手紙を作り家族らと文通して、あたたかみのある関係維持がうかがえた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	余り行えていないが、そのご家族の紹介で、地域の方が相談に来られたりします。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めている。	居室担当をはじめとする全職員が意向の把握に努めている。表現しにくい方に対しては行動や環境の変化から原因を探り、どうしたら安心して生活できるかを利用者ごとに協議している。傾聴し寄り添う態度がみられた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆったりした雰囲気、出来ることやしたいことを尊重した無理のないその人らしく過ごせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族と話し合い、介護計画を作成している。	モニタリングは最低でも3か月ごとにおこない、必要に応じて計画を見直している。担当者会議ではできるだけ家族の参加を呼びかけている。ケース検討会議で多くの職員が出席し、介護計画が見直されている経過が確認できた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、気づきや工夫を個別記録に記入し、サービス担当者会議などで活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	イチゴ狩りやぶどう狩り利用者の状況に応じた要望に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園での地域の方とふれあったり、近隣の会館で季節によってお花畑ができ、お花を摘んだりして外出しています。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師や協力医の受診に行き心身の変化等気軽に相談できる医療を受けられるよう支援しています。	かかりつけ医への受診は本人家族が目田に選択できる。職員が同行した場合は医師に状況を説明している。また、職員が同行できない場合は、医師に手紙を書いて、状況などを報告している。家族から聞いた伝達事項などは記録に残している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師、いきつけのあすか薬局の薬剤師から、いつでも相談でき適切。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院安心して治療できるようにご家族とも相談し総合病院の連携室との情報交換や相談等関係づくりを行っています。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態を把握し、家族、医師と十分話し合いを行い、取り組んでいます。	契約時、事業所でできるケアの限界について家族に説明している。重度化した場合には家族からの相談に応じて対処し、病院や施設に移る場合にはスムーズに移行できるよう申し送りなどの連携をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を職員全員受けており、定期的に講習に行き、実践力を身に付けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、総合訓練を消防署の職員の方の指導を受けて訓練をしています。地域のご家族とは協力体制はできています。	夜間の避難訓練や、火災を想定した避難訓練など年2回以上実施している。災害時に備えてアルファ米などの備蓄がある。地域と連携した避難訓練については現在協議中で、来年度の実施が見込まれている。	今後は地域住民を交えた避難訓練の実施が期待される。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり思いやりを持ち言葉をかけた対応に気をつけています。	思いやりをもったコミュニケーションに努めている。利用者の尊厳を守るために、職員間で気軽に指摘しあえるようにしている。やむを得ず居室の入り口を解放する場合などの際には、必要性について検討し理解と同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本意で言葉に気をつけて、働きかけています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、身体の状況に気をつけ楽しむことができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者でお化粧をされる方がおられるので大切にしていきたいです。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理を作り、会話を楽しみながら片づけをしている。	敷地内の畑で野菜を育て、利用者は栽培から収穫、調理までの過程を体験できる。週3日「手作りの料理の日」を設け、メニューの考案や食材の買い出し、共同して調理し、盛り付けまで楽しめる。意欲を引き出す声掛けがみられていた。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表で、水分量が確保できるよう努めています。メニューを決める時もバランスを考えて行っています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は綿パンツ、夜間は紙パンツ。習慣を活かして、自立にむけた支援を行っている。	紙パンツと綿パンツを併用しているが、夜間も紙パンツを使わずに生活できることをめざし排泄パターンの確認や誘導などのケアをおこなっている。利用者の中には適切な声掛けや誘導により、尿意の訴えが回復した方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの医師に相談したり、個々に応じた散歩や体操、便秘予防の飲み物など考えて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、個々にそった支援をしている。	ユニットで一緒に行事が楽しめるように、週3回入浴の日を決めている。希望があれば決まった曜日以外の日でも随時入浴ができる。時折、入浴剤を使いリラックスしてもらえるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を常に出して理解し症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物取り込み、たたみ、買い物、菜園作り、水やり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や買い物に出かけたり、気分転換にドライブに行きます。季節によっては、花見やおやつを持参し、外出します。	天気がよければ毎日散歩しているが、難しい場合には敷地内のベンチで外気浴を楽しんでいる。ドライブは随時おこない、希望があれば自宅付近やゆかりのある場所まで一緒に行っている。また、好きなものを食することも大切に、定期的に外食に出掛けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持し使っている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の承諾を得、電話をしたりしています。手紙は、いただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、掲示板で四季折々の工夫をしている。	共用空間は落ち着いた色調で統一され、どこどこに生花が飾られている。大きなソファが備え付けられて、気軽に休むことができる。冷暖房を利用する時には水分補給に気を配っている。また、1日最低1回以上の換気をおこない、新鮮な外気を取り入れて快適に過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は朝日が入り、気分が良いです。使い慣れたものや、好みのものが置かれ、居心地よく過ごされています。	居室は個人に応じた飾り付けなどが楽しめている。清潔保持のための掃除は、できるだけ利用者と一緒にこなすようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		